

学位請求論文の内容の要旨

領 域	看護学領域	分 野	
氏 名	高瀬 園子		
(論文題目)	看護学生の職業的アイデンティティと学習意欲に関する研究		
主 査			
副 査			
副 査			
副 査			
<p>【研究背景】</p> <p>看護学生の職業的アイデンティティの形成は、看護基礎教育から本格的に開始される。先行研究によれば、職業的アイデンティティ得点は学年間に差がみられること、影響要因には志望動機、職業モデルの有無、自尊感情などがあることが報告されている。また、看護学生は看護職としてのやりがいを感じる一方で何らかの不安を抱えていることが示されていた。しかし、学年毎の職業的アイデンティティの影響要因までは明らかとなっていなかった。さらに、職業的アイデンティティ形成に向けた今後の教育的課題として、学習意欲を高めることが述べられていたが、学習意欲と職業的アイデンティティの関連を具体的に明らかにした研究は見当たらなかった。</p> <p>そこで、学年別にみた看護学生の職業的アイデンティティの影響要因と学習意欲の関連、及び看護学生が捉えた看護職としてのやりがいや不安の実態を明らかにすることで、各学年の職業的アイデンティティ形成に向けた教育的支援に対する示唆を得ることが出来るのではないかと考えた。学習意欲については、従来の学習動機づけを連続的に捉えた Deci&Ryan の自己決定理論の視点から究明する。それにより、看護学生の学習動機づけの自律化の程度が職業的アイデンティティに及ぼす影響を明らかに出来るのではないかと考えた。</p> <p>【研究Ⅰ：職業的アイデンティティに影響する個人特性と学習意欲の関連】</p> <p>1. 目的：職業的アイデンティティに影響する個人特性（志望動機、職業モデルの有無、自尊感情）と学習動機づけの関連を明らかにする。</p> <p>2. 研究方法：</p> <p>1)対象者：北東北地方の看護系大学に在籍する 1～4 年生 1,892 名。</p> <p>2)調査期間：2017 年 6 月～9 月。</p> <p>3)方法：自記式質問紙調査法。</p> <p>4)調査内容：①基本属性、志望動機、看護職モデルの有無、学内演習と臨地実習履修の有無。</p>			

(注) 論文題目が外国語の場合は、和訳を付すこと。

【細則様式第1－2号続き】

②職業的アイデンティティ：医療系学生における職業的アイデンティティ尺度(藤井他, 2002)を用いた。③学習動機づけ：学習動機づけ尺度(安藤, 2005)を用いた。本尺度は自己決定理論に基づいた「外的調整」「取り入れ的調整」「同一化的調整」「内発的調整」の4下位尺度からなる。④自尊感情：自尊感情尺度(山本他, 1982)を用いた。

5)分析方法：職業的アイデンティティ尺度、自尊感情尺度、学習動機づけ尺度の各得点の学年間の差については、Kruskal-Wallis検定、Steel-Dwass検定を行った。職業的アイデンティティを目的変数とし、個人特性を説明変数、学習動機づけを媒介変数とした共分散構造分析、間接効果の有意性には媒介分析、各学年の分析には多母集団同時分析を行った。統計解析には、IBM SPSS Statistics version22.0及びR2.8.1を使用した。共分散構造分析にはIBM SPSS Amos version21.0を使用した。統計学的有意水準は $p < 0.05$ とした。

6)倫理的配慮：弘前大学大学院保健学研究科倫理委員会の承認を得て実施した。(整理番号：2016-052)

3. 結果：回収数662名(35.0%)のうち欠損値がない625名(33.0%)を解析対象とした。職業的アイデンティティ得点の中央値(四分位)は、1年生が101.0(89.0-117.0)と最も高く、4年生が95.0(81.0-104.0)と最も低く、1年生は2年生、4年生に比べて得点有意に高かった($p < 0.05$, $p < 0.001$)。共分散構造分析の結果、全学年のモデル適合については、 $\chi^2=88.73$, GFI=.982, AGFI=.961, CFI=.992, RMSEA=.031であった。看護学生全例の職業的アイデンティティに影響する正の要因は、志望動機「看護興味」、職業モデルの有無、自尊感情、内発的調整、同一化的調整であり、パス係数が最も高かったのは志望動機「看護興味」($\beta=.39$, $p < 0.001$)であった。一方、志望動機「職業安定」、取り入れ的調整、外的調整から職業的アイデンティティへの影響はみられなかった。媒介分析では志望動機「看護興味」、職業モデルの有無、自尊感情から内発的調整、同一化的調整を媒介し職業的アイデンティティに影響する間接効果がみられた。多母集団同時分析によるモデル適合は、 $\chi^2=56.94$, GFI=.981, AGFI=.941, CFI=1.00, RMSEA=.000であった。学年別の媒介分析では、1,2年生は志望動機「看護興味」、3年生は志望動機「看護興味」、職業モデルの有無、4年生は志望動機「看護興味」、職業モデルの有無と自尊感情から内発的調整、同一化的調整を媒介し職業的アイデンティティに影響する間接効果がみられた。

4. 考察：看護学生全例では、志望動機「看護興味」、職業モデル、自尊感情が職業的アイデンティティに影響する可能性が推測され、特に志望動機「看護興味」が職業的アイデンティティに最も影響していた。職業的アイデンティティに影響する学習動機づけには自ら進んで学習するという内発的調整と同一化的調整の影響がみられたが、学習動機が十分に自律化されていない取り入れ的調整と外的調整からの影響はみられなかった。さらに、媒介分析の結果、志望動機「看護興味」、職業モデルの有無、自尊感情が、自律的な学習動機づけを媒介して、職業的アイデンティティに影響を及ぼす可能性が示された。また、学年別の職業的アイデンティティ得点は学年間で有意差がみられ、影響する個人的要因が各学年で異なっていたことから、職業的アイデンティティ形成には学年進行に伴う履修状況の影響を受けていることが推測された。

【研究Ⅱ：看護学生が捉える看護職のやりがいと不安の実態】

1. 目的：看護学生の看護職としてのやりがいや、就職することへの不安を詳細に分析し、各学年の特徴を明らかにする。
2. 研究方法：1)対象者、2)調査期間、3)調査方法、4)倫理的配慮は、研究Ⅰと同様で

ある。

5)調査内容：講義，演習，臨地実習を通して看護職としてのやりがいや看護職になることの不安の有無とその内容について自由記述にて回答を求めた。

6)分析方法：①統計解析：やりがいと不安の有無による職業的アイデンティティ得点の差異は，Mann-Whitney U test を行った。統計解析には IBM SPSS Statistics Version22.0 を使用し，有意水準は $p<0.05$ とした。

②言語解析：やりがいと不安の内容についてはテキストマイニング手法を使用して言語解析を行った。言語解析には株式会社数理システム Text Mining Studio 5.0 for Windows を使用した。

3. 結果：やりがい「あり」の学生は，「なし」の学生に比べ，職業的アイデンティティ得点が有意に高かった ($p<0.05$)。また，不安「あり」の学生は，「なし」の学生に比べ，職業的アイデンティティ得点が有意に低かった ($p<0.001$)。看護学生のやりがいは，全例では，【患者からの感謝】【臨地実習での受け持ち患者の看護】【看護技術の修得と向上】【看護の学び】のカテゴリーが抽出された。1年生のみ【看護の重要性】【看護の見方が変わる】がみられ，2年生以降は全例と共通したカテゴリーがみられた。原文を参照すると，3年生では看護教員からほめられる，看護過程，4年生ではパンフレット作成といった内容がみられた。不安については，全学年で【看護職として働く自分のイメージ】のカテゴリーが抽出された。学年別では，1～3年生では【患者の命や看取りに関わる】，2,3年生では【看護技術の習得と実践】，3年生では【根拠に対する知識不足】，4年生では【緊急時の対応】のカテゴリーが抽出された。原文を参照すると，1年生では学習内容，2年生では上手く出来ない，覚えることの多さ，3年生では未熟，臨床指導者，4年生では仕事，注意されるといった内容がみられた。

4. 考察：看護学生は，患者からの感謝や臨地実習での看護実践から看護職としてのやりがいを感じ，職業的アイデンティティ得点が高くなると推測された。学年進行に伴い，看護過程やパンフレット作成がみられたことから，根拠に基づいた看護実践や対象者に応じた看護実践をすることがやりがいに繋がると考えられる。一方，看護学生は，学内演習や臨地実習の経験から看護技術や根拠に基づいた知識が未熟であることを実感し，自分自身が看護職になることへの不安を抱き，職業的アイデンティティ得点が低下する可能性が推測された。

【総合考察】

職業的アイデンティティ得点は学年進行に伴い低下するが，専門的な学修や臨地実習の経験から患者からの感謝や根拠に基づいた看護実践によりやりがいを感じていた一方，自分自身の看護技術や知識の未熟さを実感することで看護職になることへの不安が生じていることから，学年進行に伴う職業的アイデンティティ得点の低下は，むしろ学生自身が看護の現実と向き合い，職業的アイデンティティが形成されていることが推測される。

【結語】

1)志望動機「看護興味」，職業モデル，自尊感情は，職業的アイデンティティに影響し，さらに，これらの要因が自律的な学習動機づけを媒介することで職業的アイデンティティに影響する可能性が示された。

2)職業的アイデンティティ得点は学年間に差がみられたこと，個人的要因の影響が学年毎で異なっていたことから，学年進行に伴う専門的な学修や臨地実習の経験は職業的アイデンティティの形成に影響を与えることが推測された。

【細則様式第 1－2 号続き】

学位論文のもととなる研究成果としての筆頭著者原著

論 文 題 目	The Influence Of Personal Characteristics And Learning Motivation On The Professional Identity Of Nursing Students
著 者 名	Sonoko Takase, Ryoko Tsuchiya, Yoshiko Nishizawa
掲載学術誌名	Hirosaki Medical Journal
巻, 号, 項	69巻, 1-4号
掲載年月日	2019年3月 (掲載予定)